図書案内　2023年　7月号

夏に読みたい本

いよいよ待ちに待った夏がやってきました。夏はアウトドアや地元の行事など、ワクワクすることがたくさんありますね。

今回は、そんな夏に読みたい本を紹介します。ミステリーの夏、冒険の夏、戦争の夏…普段よりも自分の時間がとれる夏休みに様々なジャンルの本を読んで、自分の知らなかった世界に足を踏み入れてみてはどうでしょうか。また、図書館はエアコンが効いています！勉強で疲れた時はぜひ涼みにきてください！

『夏と花火と私の死体』／乙一

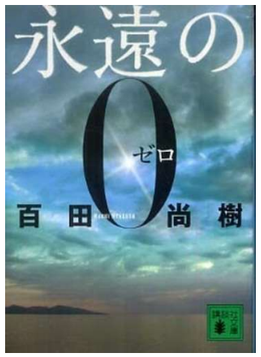
九歳の夏、私は殺された。無邪気な犯人の手により、あっさりと。この作品は初っ端から五月ちゃんが殺されてしまいます。そして五月ちゃんの死体をめぐる幼い兄妹の悪夢のような花火大会までの四日間が始まります。いなくなった五月ちゃんを探す大人たちと、誰にもみつからずに私の死体を隠そうとする兄妹。斬新な構成で最後までドキドキが止まらない著者の圧倒的デビュー作！！ぜひこの夏に読んでみてください。

「そうだ！五月ちゃんを隠そう！ここで死んだことがばれなけりゃいいじゃないか！」

『サマーウォーズ』／岩井恭平

数学が得意な男子高校生が、憧れの先輩女子にせがまれ、彼女の田舎の大家族の前で婚約者のふりをする。その夜、彼は謎のメールを受け取り、そこに示された奇妙な数字の解読に尽力する。そして翌日、インターネット上の仮想世界の暴走によって世界が一変。少年は、一家と共にその危機に立ち向かう。

「何かまだ手があるはずです、絶対に」

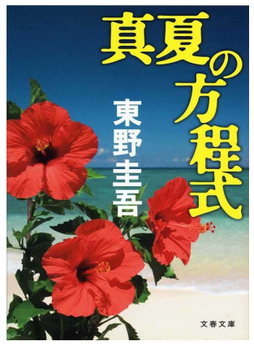


『永遠の０』／百田尚樹

司法試験に落ち、人生の目標を失いかけていた主人公は、彼の姉とともに、太平洋戦争末期に零戦に乗り命を落とした彼らの祖父の最期について調べ始める。

腕前は優秀だが臆病者。戦場から何度も生還し続けた。そんな祖父がなぜ特攻隊に入ったのか。複数の祖父の戦友の話から祖父の生涯が少しずつ明らかになっていくのは、読んでいてとても興味深いものだった。
この夏に今一度、戦争や平和について考えてみてはどうか。

「生きて、必ず生きて帰る。妻のそばへ、娘のもとへ。」



『真夏の方程式』／東野圭吾

東野圭吾のガリレオシリーズの中の一作。夏休み中親戚の旅館で過ごすことになった少年は物理学者の湯川に出会い、二人は事件に巻き込まれる。子供嫌いの湯川が少年と関わる中で、その優しさが垣間見られます。登場人物それぞれが自分の大切な人を守るためにつらく葛藤している様子が印象的です。真相に近づくにつれ、せつない気持ちになります。普段読書をしない人でも読みやすいおすすめの一冊です。

「わすれないでほしい。君は一人ぼっちじゃない」

花火

夏の風物詩といえば、打ち上げ花火。夏休みは花火大会に行く人も多いのではないでしょうか。花火の起源は中国、秦の時代。狼煙として使われたのが始まりだといわれています。

日本では江戸時代以来、ほとんどが手作業で作られています。一つの火薬玉からあんなに鮮やかな花火をどうやって作るのだろうと思ったことはありませんか。花火の鮮やかな色、これは火薬に混ぜてある金属による、「炎色反応」によって生み出されています。ストロンチウムや銅など、花火玉の中に異なる金属を順番にいれ、花火の色を変えることもできるのです。花火師は見ている人に花火の色の感覚が残る、「残像」まで計算して 0.1 秒単位で色が変化するよう考えているそうです。花火玉には、この金属を詰めた「星」という火薬と花火を爆発させる「割薬」という火薬があり、その詰め方によって花火の形が決まってきます。また、あの打ちあがるときのときのヒューという音は「のぼりぶえ」と呼ばれる演出なんだそう。今年は花火の様々な工夫を楽しんでみてはどうでしょう。

引用文献　https://kosodatemap.gakken.jp/learning/science/24191/